

R. Y. 英語英文学科・3 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

2 つ理由があります。

1) 英語をツールとして実践的に使えるようになりたい。

大学に入学したときの目標は漠然と英語力の向上でした。日本にいる際に AES コースに所属し、TOEIC の点数も 600 から 805 と英語力の伸びは感じることができました。（大学 1 年次－2 年次）「英語力を伸ばす」という目標を達成した次に何をしたいかを考えたときに、興味があった環境学や Well-being について学びたいと思いました。また、英文科のカリキュラムがあくまでも英語を習得するためのものであって、英語で何かを学ぶということではなかったため、将来的に仕事などで実践的に使える英語を取得できているか不安でした。そのため、英語で自身が学びたいことを学びきり、実践的な力を得ようと思ったことがきっかけです。

2) 異文化の中でも対等に相手と接することが出来る力を得たい。

留学生と日本について英語で学ぶ授業（AES）を受講した際に、意見を言えずまた全てを留学生に任せっぱなしになっている受動的な自身の姿に気づきました。日本人間の日本語でのやり取りであれば、リーダーシップを発揮したり積極的に物事に組み入れたりするにも関わらず、英語になった途端に自信の無さなどから消極的になり、相手と対等に対話出来なくなっていたことが凄く悔しかったです。そのことから、留学を通して異文化の中でも物怖じせず様々なことに挑戦したいと考えました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

目標 IELTS6.0

参考書：IELTS ACADEMIC CAMBRIDGE

公式の参考書を一冊購入し、それを繰り返し解くことによって形式に慣れるようにしました。Speaking は大学にて無料で受けられる、国際課の English Chat でネイティブの先生に模擬試験をお願いし、何度も練習しました。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

授業に真剣に取り組む。英語のポッドキャストを聞く。

◆ ビザ申請方法

ネットで申し込みをして、予約した日に心斎橋にあるアメリカ大使館に行って発行しても

らう。（少し時間がかかるので前もって準備した方がよい）

◆ その他

ワクチン接種（何度か病院に行って打たないといけないので、早めに準備する）

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

Chatham 大学の国際課の方が迎えに来てくれた。車で 35 分ほど。

◆ 現地でのオリエンテーション期間中にしたこと

大学周辺の案内、履修登録、アメリカのルールや州のルール確認、文化や安全に対する案内。

◆ その他必要な諸手続き方法

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学研修期間なし

◆ 授業内容、課題、試験

なし

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

教授は親切なので質問すれば相談にのってくれる。授業のキャンセルが多いと感じた。また、その補講もないのでモチベーションが下がる原因でもある。

◆ 履修科目について

・ Hip Hop

週 1、90 分、授業ごとに異なる先生の振付をみんなで踊る。課題なし。最終課題は 3 ページのアートに関する essay または 3 分ほどのパフォーマンス（歌、ダンス、絵などなんでもあり）。

*ダンスを習っていた経験がある人には物足りないかも。上級のダンスの授業もあるのでそちらも検討してみては。

・ Representations of Race and Gender

週 2、1 コマ 75 分、ハリウッド映画から人種や性の変遷を学ぶ。critical analysis といい、映画の批判的分析を書く、この授業は課題が多かったが、引用の仕方やアメリカの歴史を学ぶことが出来たので興味深かった。最終課題はプレゼンテーション+900 words ほどの essay。

• **Our Fragile Earth**

週 2、1 コマ 75 分、オンラインで配信される授業を予習しクラスでディスカッションをする。2 週間ごとに web テストがある（内容が難しいので高得点を取りづらい）。最終課題/テストはなし。（いままでの小テストで換算される）

• **Foundation of Human Communication**

週 2、1 コマ 75 分、課題はないが reading 資料が多い。授業を聞き、事前に読んできた資料に対する理解を深める。（基本資料が難しく意味がわからないので、授業に出なければすぐについていけなくなる）小テストが 3 回に 1 回ぐらいある。最終課題は、communication とはなにかという定義を様々な哲学者や社会学者の考えを用いて述べる記述式テスト。

• **Linguistics**

週 1、1 コマ 150 分、授業内容を予習し小テストを受け授業内でさらに理解を深める。4 回に 1 回ぐらい大きいテストがあり、持ち込み不可。主に講義形式の授業。最終テストは全授業内容の総まとめテスト。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

K-pop ダンスクラブを立ち上げた。Instagram を通していろいろなクラブの情報を得ることが出来るので、気になるものがあれば自分からコンタクトを試みれば何でもできる。

⑧ **現地での住まいについて**

◆ **正規科目履修期間**

寮、3 人部屋（2 人部屋＋1 人部屋）、食事は基本、食堂（ミールプラン）

⑨ **長期休暇の過ごし方**

1 セメスター留学の為なし

⑩ **留学期間中の就職活動の取り組み**

主にボストンキャリアフォーラムに向けて準備。SPI などのテスト勉強。気になっている企業の説明会や web インターンに参加。

Ⅱ. **留学の感想**

① **留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること**

チャリティイベントでダンスを発表し、観客のみんなが楽しそうにしていたこと。終わった後に友達関係なく褒めてくれたり、話しかけてくれたりして新しい交流が増えた。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

コミュニケーション学の授業。

コミュニケーションと聞いて安易に選んでしまったが、実際には心理学や哲学からコミュニケーションとは何かを紐解いていく授業で触れたことのない内容だったために、内容についていくのに必死だった。何度も授業に行くのを辞めようかと考えたり、ついていけない自分が悔しくて心が折れそうになったが、その都度予習に力を入れたり、教授に個別で教えてもらったりすることによって乗り越えた。最終の記述課題で満点をいただけて、諦めずに頑張ったよかったなと思えた。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

すぐに人を家に招くこと。初めて遊ぶにも関わらず家に呼ばれるのは嬉しいけれど、日本ではあまりない事なので戸惑った。また、友達と遊ぶときに友達の友達や彼氏も一緒に遊ぶことに驚いた。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点：周辺の治安が良い、アメリカにしてはバスが便利、アメリカにしては遊ぶところが多い、日本人が少ない。

悪かった点：小さいコミュニティ、国際色豊かでない、若干白人コミュニティが感じられる、シャイな人が多いため、自分からいかないと一人ぼっち、食堂での食事が合わなかった。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン、常備薬、化粧品、生理用品、爪切り、レトルトのパスタソース、お茶の粉末とにかく食べ物。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

英語力自体が伸びたかはわからないけれど、英語でコミュニケーションを取ろうとする姿勢やネイティブが使う言い回しを習得できたと思う。決めた目標を達成できたことから自分に自信がついたし、自分のことが好きになった。アメリカでは皆どんなに小さなことでも褒めてくれるし応援してくれるので、完璧でなくていいのだと思うことができ、自分のことが好きになれた。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に挑戦するか迷っている方もいるかと思います。私は留学を通して、いい事ばかりでは

なかったけれど、それも含めて人間的に大きく成長できたと思います。留学に行けるチャンスがあること、金銭的に支援をしてもらえること、それは当たり前ではないです。なので、少しでも機会があるのであれば勇気を出して挑戦してほしいですし、チャンスを逃さないでほしいです。アメリカでは理不尽なことや日本と違う点に沢山ぶつかると思います。ただ、主張すれば何でもできる、叶う国だと私は思います。辛い事があっても少し踏ん張ってみてください。そうすれば、大変なことがあっても支えてくれる、背中を押してくれる人が見つかります。親友と呼べるほど気の合う友達ができます。

＊ルームメイトには気をつける（気が合わない人との共同生活はストレスしかないので我慢せずにすぐに部屋を変えましょう）

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

製薬、科学、空調などの「世界中の人びとの豊かな日常を支える仕事」に携わり、日本国内だけでなく海外でも英語を使って仕事がしたいです。

V. 写真



ASA（アジアアソシエーション）のイベントに参加したときの写真

ピッツバーグはたくさんの大学があるのですが、各大学のアジアアソシエーションが集い、ビンゴやクイズ大会をしました。初対面の人と英語で話すのは緊張しましたが、違う大学の学生とも交流ができ楽しかったです。



バレーボール部の試合観戦に行ったときの写真です。大学内にコートがあり、バスケットボールやバレーボールの試合がよく行われます。学生の応援の熱量が高く試合に熱中できました！！



ダウンタウンでカヌーをしたときの写真です。大学からバスで 20 分でダウンタウンに出ることができ、美術館やサイエンスセンターなどがあります。ピッツバーグは Bridge が有名で大きな川が流れています。そこにルームメイトとカヌーをしに行きました。これほど幅の広い川でカヌーをすることは初めての経験だったので楽しかったですし、自然を感じることができリフレッシュできました。

M. H. 英語英文学科・3 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

大学に入学した当初からなんとなく留学をしてみたいな、と思っていました。ただ、それほど英語の勉強にモチベーションがあるタイプではなかったため、具体的にどこに行きたい、何をしたい、といった部分はあまりはっきりしていませんでした。留学に行った同級生から留学の様子のお話を聞くうちに、留学に行きたいと強く思うようになり、二年次ごろから TOEFL や IELTS の勉強を本格的に始めました。コロナのパンデミックがあったことと、テストのスコアが留学の条件を満たしていなかったこと、日本語日本文学科の副専攻を優先したことでこのタイミングになりました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

TOEFL の単語集を持っていたため、ずっとそれを使っていました。教材はすべて学校の TOEFL・IELTS 対策の授業で使ったものや、先生のプリントを使用していたものを使っていたため、個人で何か用意することはありませんでした。IELTS は、テストを 2 回受けました。参考書を買わなかった代わりに、このテスト代が高かったです。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

簡単に自分のことを紹介できるようなセンテンスを用意していました。200 番台の難しい授業をとる予定だったため、専門の分野に関する英単語や基礎知識の振り返りをしていました。

◆ ビザ申請方法

ネットでやり方を調べてやっていました。思っていたよりすんなりいきませんでした。一気にすべてを入力することはできなくて、日数を置いて入力する必要があるため、前もって始める方が良いと思います。

◆ その他

ワクチンは、接種に時間を空けなければならないため、早くから準備する必要があります。私の場合、留学先の学校のワクチン接種のフォームにはいろいろな種類のワクチンの接種が必要と書かれていましたが、留学先大学のアシスタントの方にメールで聞いたところ、すべてのワクチンを接種しなければならないといったわけではありませんでしたので、接種前にメールをしてみてください。

日本で海外保険に入るとは思います、私は向こうの大学でも保険に入る必要がありましたので、特に心配がなければ、Chatham University に留学される方は保険料が一番安いもので大丈夫かと思っています。

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

留学先大学のオフィスの方が車で迎えに来てくださります。学校についてから、部屋への搬入も手伝って下さいました。なので、スーツケース 2 つを一人で移動して運ぶ必要はありませんでした。大学までは 1 時間くらいかかったと思います。

◆ 現地でのオリエンテーション期間中にしたこと

日本からお菓子を持ってきていたため、留学生とのオリエンテーションの時にもって行って、友達作りをしていました。できるだけたくさんの人とインスタグラムを交換しました。なかなかなじみのない名前だと覚えられないので、インスタなどの SNS を使って名前のスペルや読み方を確認していました。大学のメールボックスを借りることができたため、何か物を送付してもらうときの住所は、Chatham の Mailroom に変更しました。バスでの移動がほとんどなので、バスの乗り方、降り方、学生たちがよく乗るバスや、バスの行き先などをアドバイザーの方に教えていただきました。Transit というアプリでバスの時刻などを確認していましたが、バスはあまり正確ではありませんでした。あとは履修登録など、わからない部分をすべて現地のアドバイザーの方に質問して早めに解決させていました。友達や留学生と近くを散策していました。

◆ その他必要な諸手続き方法

銀行口座は開設しませんでした。1 年間留学した韓国の留学生の友達は口座を開けていました。口座を開けていると割り勘するときにお金をオンライン上で送金できるそうで、それが便利だと言っていました。大学の近くに銀行がたくさんありました。現地で保険に入る必要があり、約 290 ドルかかりました。保険の費用は、寮費や諸費とまとめて支払いました。Chatham の Student Account というオンライン上のページで、カードを登録して支払いました。まとめて約 8,300 ドルでした。

⑤ 語学研修期間

語学研修は受けませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

専攻している分野について2つの授業を、アメリカの文化に関する授業と、演劇の授業を受けました。そのほかにも、英語、言語、教育、コミュニケーションなど様々な分野の授業があり、幅広く選択することができます。音楽の作り方を学ぶ珍しい授業もありました。ヨガなどの体育、保健領域の授業の種類が豊富で、興味のある方は取ってみるといいかもしれません。それぞれ寮から近い教室だったのでとても便利でした。授業間には図書館や大学内のカフェなどを利用していました。図書館は予約制の1人用自習室があり、とても便利でした。また、パソコンルームがあり、24時間空いているので夜まで勉強することができます。

◆ 履修科目について

・EDU205 ELL Teaching Strategies for Classroom Teachers

英語を母語としない学生、English Language Learners（ELL）に対して、学校の先生が教室、または授業で行う Modification や学生に合わせた環境づくり、そのために必要な知識や心構えを学びました。週に1回程度テキストの内容について10分程度のディスカッションがありました。学生の言っていることを理解するのは大変でしたが、テキストをしっかり読んでくれば、自分の意見の発信はそんなに難しくはありませんでした。課題はたくさんありました。小さなものと、上記したディスカッションの内容をまとめてその日中に提出していました。また、英語を第二言語として勉強している学習者に対してインタビューを行い、そのような学習者のいる環境で必要な Modification を自分で考察する課題がありました。インタビューももちろん英語なので大変です。留学生同士で友達になっていたのも、その留学生に話を聞いていました。また、特定の言語について調べ、その言語を話す人々が英語を勉強する上で陥りがちなミスや文法上、音声、表記の違い、文化の違いなどをまとめて発表するペアワークがありました。最後の週に最終発表があり、10分間の模擬授業を行いました。授業のテーマを決め、授業のスライドを作成し、ELLのためにどのようなサポートを行っていくのかを発表します。大変でしたが先生も学生もとてもあたたかい人で、私の話を真摯に聞いてくれていました。

・ENG209 Linguistics

Linguistics の授業は、毎週授業前にテキストを読んで事前課題を提出します。これは小テスト形式で、教科書を読みながらやっていました。このテキストの内容を理解するのがとても難しく、毎週日本人の友達と一緒に3、4時間かけて予習していました。また、授業終わりにも復習テストを受けていました。4週に1回ほど大きなテストがありました。しかし、範囲も限定されていて、すべて小テストと同じ形式で出題されるので、小テストをしっかりやり直せば、満点をとれます。実際満点を取りました。とてもモチベーションが上がりました。最終テストも同じように小テスト形式でしたが、範囲が全範囲だったため、勉強に時間がかかりました。そのほかに提出するレポートや発表はなく、授業中にディスカッションな

どもあまりない授業だったので、テキストの内容はとても難しいですが同女のゼミとの交換は厳しいかもしれません。先生はとてもやさしい方でした。ビザの要件で、アメリカに関する授業を一つとる必要がありました。

・ELI191 US Culture

この授業は留学生のみのクラスで、全員英語学習者です。そのため英語を話す練習になりました。授業の内容はとても易しいですが、時に政治などの難しい内容も扱いました。先生はとてもやさしい方で、面白い授業づくりを実践される方でした。ほかの授業と比べて、この授業では発言がしやすい雰囲気があって、質問もしやすいです。また、留学生の友達から聞く彼らの国の話がとても面白いです。5 回ほどプレゼンテーションがありましたが、内容は易しく、アメリカのドラマを紹介する、行ってみたい都市について調べる、などでした。学校周辺を散策したり、ハロウィンパーティーをしたり、とても楽しい授業でした。英語を話すのが楽しくなると思うので、おすすめしたい授業です。そのほかは好きに授業を選択できます。

・THT141 Acting One

ドラマについて勉強する授業でした。初めにエクササイズやウォーミングアップをみんなでするのが楽しかったです。授業では様々な発表を行いました。自分で作った英語俳句を朗読し、シェイクスピアのソネットの独白の演技を行い、戯曲からモノローグを引用して演じたりしました。最後には最終発表で The Intelligent Design of Jenny Chow をグループで演じました。私はロボットを演じました。はじめはついていくのに必死でしたが、先生も学生もとてもやさしく、心を開くことができました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

一度だけ、カーネギーメロン大学のアジア系学生のクラブの集会に参加しました。日本にルーツを持っている学生に会うことができ友達が増えました。

⑧ 現地での住まいについて

◆ 正規科目履修期間

3 人部屋の寮でした。寝室はアメリカ人のルームメイトとシェアでした。トイレとシャワーは共有でした。アメリカについてははじめの数日間は食堂が空いていないため周辺のスーパーマーケットやパン屋さんでごはんを買っていました。寮は大学のなかにあるため教室に行くのには 10 分もかかりませんでした。コマ間に部屋に帰ることもありました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

ニューヨークが近いため、バスや電車で行くことができます。空港までのバスも無料なので、空港も利用しました。寮を出なければならないということはありませんでした。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

就職活動はしませんでした。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

いろいろな国の友達と授業で話をしたことです。私は、英語をもっと話せるようになりたいと思って留学しました。留学生と出会って、英語には様々な種類があることを実感し、彼らが英語を勉強する姿を見てとても刺激を受けました。最も思い出に残っていることは、大学の学生で大学のカフェでアルバイトをしている学生がいたのですが、彼が日本語を勉強していて、彼と会うたびにコミュニケーションをとったことです。彼は日本語を練習して、私は英語を練習しました。当時はアメリカについてすぐで、自分の英語が通じないことが多発したり、バスの降り方に戸惑って怒られてしまったり、慣れないことだらけで落ち込んでいました。そんな状況でも、自分でトライしてみることが大切だと気づかせ、私に自信を与えてくれた時間でした。留学生とは一緒にスケートやクリスマスマーケットに行きました。また、個人的な趣味である演劇鑑賞と美術館巡りも充実させることができました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

個人的に大変だったことは、卒論との両立です。わからない部分をひとりで解決するのは容易ではなく、とても疲れることでした。ゼミのメンバーとはしっかりコミュニケーションをとって、些細なことでも相談してみることが大切だと実感しました。また、対面で人と会って話をすることの大切さ、その価値の偉大さを改めて実感しました。友達と zoom で顔を合わせるだけでもすごく気持ちが楽になりました。また、アメリカは寒暖差が激しく、私も渡航して1か月で風邪をひきました。鎮痛剤と解熱剤しかもっていかなかったため、治りが遅く、せきの完治には1か月以上かかりました。風邪薬の持参をお勧めします。あとは、バスのシステムがややこしく苦労しました。バス停が頻繁に変わります。ダウンタウンから帰るときは早めに帰れるようにして、最悪歩いてでも帰れるようにした方が良いと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

基本的にバスの車内などで座席に靴を置いたり、においがあったり、道路にいろんなものが落ちていたり、日本人からするときたないと感じる瞬間が日常的にたくさんあります。ですが、汚しているわけではなく、みんなが使いやすいように使っているという感じです。バス

の座席に靴をつける人もいますが、同じようにスーツケースなどの大きい荷物も汚くてもおいて大丈夫です。どんな人でも使いやすいようになっているように感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

交通の便がとてもいい。寮からバス停がとても近い。教室も近い。Wi-Fi がどこでも使える。食堂がきれい。図書館は 22 時まで空いていて、パソコンルームは 24 時間空いている。いろいろな学部とも交流がある。アジア人が少ない。食堂の料理は同じものが多く、飽きてしまうかもしれない。アジア系の料理は少ない。寮の部屋は暗い。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは持っていきましたが、向こうでキーボードが壊れて仕方なく買いました。日本にいる間に接続などを確認しておいた方が良いと思います。日本のお土産。パスタなどを湯切るざる。100 均などの耐熱タッパー。洗濯ネット。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

テストを受けていないので点数の違いはわかりませんが、モチベーションがとても上がりました。英語を使って仕事をしたいとか、日本文化に関わる仕事がしたいなど、意識は明確に変わりました。あとは、もう一度海外に住んでみたいと思うようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

VPN 接続は日本で済ませてから行った方が良いでしょう。お箸は向こうで折れてしまうかもしれないので多めに持って行って、余った分はお土産としてあげるくらいがよいと思います。アメリカの学生と話をするのが難しいときは、留学生と友達になったり、日本語を勉強している学生と友達になったりするとよいと思います。先生方はとてもやさしいので、メールで授業を見学させてほしい、と送ると授業への参加を認めてくださると思います。困ったことがあるときは、すぐにアドバイザーの方に言った方がいいです。日本人への SOS も些細なことでもいいから出した方が良いでしょう。何を言われているかわからないときは、正直にわからないと伝えて、向こうにもう一回言ってもらった方が自分の勉強になると思います。しんどい時は無理しないのが一番です。

Ⅳ. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

日本文化に関わる仕事がしたいと考えていますが、まだ不透明です。英語のスキルをもっともっと上げていきたいです。

V. 写真



ELI の授業のハロウィンパーティーの様子。
ジャックオランタンをみんなで作りました。



留学生のみんなでダウンタウンにスケートに行きました。翌日に帰国する子もいたため、みんなで集まる最後の日でした。



ピッツバーグの劇場でムーランルージュを観劇。一番安い席で 45 ドルです。それでもとても見応えがありました。



12 月上旬、Chatham のチャペルでのクリスマスキャンドルナイト。コーラスに所属している友達が歌を歌っていました。クリスマスの雰囲気を体験できる貴重な機会でした。



9月に、アレゲニー川でカヤックに挑戦しました。
右にあるビル群がダウンタウンです。真ん中の黄色い橋は、ピッツバーグのトレードマークです